

令和7年度 デイパーク大府 事業活動報告書

令和7年度は、物価の高騰や慢性的な人材不足といった厳しい環境変化の中、安定した事業運営と質の高いサービスの提供を両立させることに努めてまいりました。

ご利用者一人ひとりの思いを大切にし、安心・安全を基本とした介護サービスを提供するとともに、「和」の精神で職員同士の連携を深め、信頼される事業所運営を継続してまいりました。

さらに、地域とのつながりや公益性の発揮、人材育成に取り組み、「地域の皆様に愛され、頼られるデイパーク大府」を目指した事業運営を行っております。

1. 【施設運営】

(1) 施設及び運営体制の整備

① ICT 活用・業務改善

介護ソフトの入れ替え及びインカム導入を実施し、情報共有体制の強化、業務効率化、生産性向上及び時間外労働削減に取り組みました。

② 職場環境整備・職員定着支援

ストレスチェック、メンタルヘルス研修を継続実施するとともに、勤務時間の柔軟な対応、休暇取得推進、育児・介護との両立支援制度、福利厚生制度の充実に努めました。また、新たに福利厚生サービス「ベネフィット・ステーション」へ加入し、動画配信サービス利用等を含む福利厚生メニューの充実に図り、働きやすい職場環境づくりと職員定着支援に取り組みました。

③ 人材育成・サービス品質向上

階層別研修、WEB研修及びQC活動を継続実施するとともに、介護福祉士資格取得支援制度等の運用を継続し、人材育成及びサービス品質向上に取り組みました。

④ 防災体制・施設整備

非常食備蓄の充実に図り、福祉避難所としての機能強化に努めました。また、本館・新館大規模修繕工事完了後を見据え、将来的な施設整備、地域課題への対応及び人材確保・育成に向けた中長期計画の検討を進めました。

⑤ 障がい者雇用推進

障がい者職員7名が勤務し、障がい者雇用率5.6%を達成しました。これにより、令和8年度も継続して助成金受給対象法人となります。

(2) 利用者支援

① ケア体制の充実

ICT 機器及び職員間の情報共有体制を活用し、利用者一人ひとりに対する迅速かつ丁寧なケア提供に努めました。

② 生活支援及び生活意欲向上支援

毎月の行事、行事食提供及び嗜好アセスメントを継続実施するとともに、対面面会、買い物支援及び移動販売の活用を通じ、利用者の楽しみや生活意欲向上につながる支援に取り組みました。

(3) 地域貢献

① 地域交流・地域活動支援

近隣地域の清掃活動を継続するとともに、横根山2組と共同し、地域行事及び祭りへの協力、自治会・子供会活動支援など、地域に開かれた施設運営に努めました。

② 地域防災への取組

防災訓練における地域住民・関係者との連携を継続し、地域交流及び地域防災活動を推進しました。

③ 就労支援・地域交流

障がい者就職トレーニングセンター等と連携した就労支援活動を行うとともに、感染予防対策に配慮しながら、会議室利用等を通じた地域交流に取り組みました。

2. 法人運営体制・会議開催状況

【理事会】

(1)開催日 令和7年5月26日(月)

出席者 理事6名(定数6名) 監事2名(定数2名)

開催場所 デイパーク大府 1階 特養会議室

議決案件 ・令和6年度事業報告並びに計算書類等の承認の件
・定時評議員会の招集の件

(2)開催日 令和8年1月19日(月)

出席者 理事6名(定数6名) 監事2名(定数2名)

開催場所 デイパーク大府 1階 特養会議室

議決案件 ・令和7年度資金収支補正予算(案)
・令和8年度デイパーク大府事業計画(案)
・令和8年度資金収支予算(案)

【評議員会】

(1)開催日 令和7年6月16日(月)

出席者 評議員5名(定数7名) 監事2名(定数2名)

開催場所 デイパーク大府 1階 特養会議室

議決案件 ・令和6年度事業報告並びに計算書類等の承認の件(案)
・新役員の選任(案)

(2)開催日 令和8年2月16日(月)

出席者 評議員7名(定数7名)

開催場所 デイパーク大府 1階 特養会議室

議決案件 ・令和7年度資金収支補正予算(案)
・令和8年度デイパーク大府事業計画(案)
・令和8年度資金収支予算(案)

【監査】

[監事監査]

監査員 社会福祉法人長福会 監事 2名

実施日 令和7年5月26日(月)

対象 令和6年度 事業報告書 会計帳簿類 監査チェックリスト

【委員会】

- ・安全衛生委員会 月1回
- ・研修・サービス向上委員会 月1回
- ・地域交流委員会 月1回
- ・事故発生防止委員会 2ヶ月に1回
- ・身体拘束廃止・高齢者虐待防止委員会 2ヶ月に1回
- ・給食委員会 2ヶ月に1回

3. 課題と今後の対策

(1) 将来を見据えた運営計画

【課題】

大規模修繕工事終了後の施設運営や、将来的な地域課題への対応について、中長期的視点での整理・検討が必要となっています。

【今後の対策】

- ✓ 建物老朽化への対応整理
 - ✓ 将来の施設機能の検討
 - ✓ 地域ニーズに対応する新サービスの具体化
- を進め、持続可能な法人運営体制構築を目指します。

(2) 地域防災力のさらなる向上

【課題】

福祉避難所として求められる役割強化に向け、備蓄体制及び地域連携体制のさらなる充実が必要となっています。

【今後の対策】

非常食等の備蓄充実を図るとともに、

- ✓ 地域住民参加型合同訓練の実施
 - ✓ 訓練内容の実践化
 - ✓ 「顔の見える関係づくり」の推進
- を進め、災害時に円滑な支援体制を構築します。

ケアハウス

利用定員 30名

目標：稼働率 98%

実績：稼働率 96.94%（昨年度稼働率 93.33%）

令和 7 年度 新規入居者 6 名、退去者 1 名

令和 8 年 4 月 1 日現在 29 名

	入居者	新規入居者	退去者	稼働 (%)	待機者	備考
R7年4月	27	2	1	90.00	5	
5月	26	0	0	86.67	5	
6月	27	1	0	90.00	5	
7月	29	2	0	96.67	5	
8月	30	1	0	100	6	
9月	30	0	0	100	8	
10月	30	0	0	100	8	
11月	30	0	0	100	8	
12月	30	0	0	100	9	
R8年1月	30	0	0	100	10	
2月	30	0	0	100	11	
3月	30	0	0	100	12	
合計	349	6	1	96.94		

※入居者、新規入居者は毎月 1 日現在 ※退去者 毎月末日現在

<入居実績・稼働状況>

6 年度末からの退去者発生の影響により年度当初は空床期間が生じ、満床に至るまで数か月を要しましたが、8 月以降は満床運営となり、年間平均稼働率 96.94%となりました。新規入居者 6 名、退去者 1 名となり、待機者数についても包括支援センターや外部関係機関との連携により、年度当初 5 名から年度末 12 名まで増加しました。

<運営状況>

入居者の健康状態の変化に伴い、入退院や受診支援、家族対応に多くの調整を要する一年となりましたが、日常生活支援の充実にも継続して取り組みました。初詣、いちご狩り等の外出支援、ぜんざい提供、ケーキバイキング等のお楽しみ行事を定期的実施したほか、無料送迎バス運行や買い物ツアーも開催し、生活の充実と外出機会の確保に努めました。

<課題分析>

満床に至るまで時間を要した要因として、入居者候補者の多くが県外在住であったことに加え、自宅整理、関係施設との調整、本人及び家族との入居に対する相互理解に時間を要したことが挙げられます。待機者については、申込後一定期間を経過した方への状況確認を実施し、入居意思や介護状況等の精査を行うことで、実態に即した実効性の高い待機者リストへの見直しを進めることができました。

<今後の課題及び対応>

今後も包括支援センター、医療機関及び関係機関との連携を継続し、円滑な入居調整と安定した入居率維持に取り組みます。また、待機者情報の定期的な更新と適切な入居判断を行うとともに、医療ニーズの高まりを見据えた受診支援及び家族対応の充実を図り、安心して生活できる環境づくりと生活の質向上に努めてまいります。

通所介護事業所 第1 デイサービスセンター

利用定員 30名

目標： 延べ数 7,750名 稼働率 83%

実績： 延べ数 7,178名 稼働率 78.0% (前年度稼働率 69.0%)

利用者	稼働日数	人数	延べ数	新規数	中止数	平均数	稼働率
4月	26日	60	595	2	2	22.9	76.3%
5月	26日	62	566	3	1	21.8	72.6%
6月	26日	61	602	3	3	23.2	77.2%
7月	27日	62	610	1	1	22.6	75.3%
8月	26日	62	582	1	1	22.4	74.6%
9月	26日	62	581	2	2	22.3	74.5%
10月	27日	64	654	1	1	24.2	80.7%
11月	24日	63	568	0	0	23.7	78.9%
12月	26日	65	625	1	0	24.0	80.1%
1月	24日	67	584	3	3	24.3	81.1%
2月	24日	65	574	2	1	23.9	79.7%
3月	26日	65	637	1	4	24.5	81.7%
合計	308日	758	7178	20	19	23.3	78.0%

<実績・稼働状況>

令和7年度は、年度後半に向けて稼働率が改善し、最終的には前年度を9.0ポイント上回る78%まで到達しました。特に10月以降は80%台を安定して維持しており、営業活動やサービス改善の成果が稼働率向上につながりました。

<運営状況>

営業・広報活動の強化として、外部居宅介護支援事業所への訪問や地域イベントへの継続参加を行い、新規利用者獲得と認知向上に努めました。また、介護ソフト「ケアカルテ」及びインカム活用の定着を進め、業務効率化と情報共有の強化を図るとともに、利用者との交流やレクリエーションの充実にも取り組みました。人材育成面では、内部研修や事例検討会を通じて介護力及びチーム力向上に努めました。

<課題分析>

稼働率は改善傾向にあるものの、目標稼働率83%には未達となっており、更なる新規利用者獲得と利用継続支援が課題となっています。体験利用後の契約率が高いことから、体験利用へつなげる営業活動及び相談対応の重要性が改めて確認されました。

<今後の課題及び対応>

令和8年度は、稼働改善傾向を維持しながら、目標稼働率83%の達成を目指します。営業・広報活動、サービス品質向上及び人材育成を継続し、新規利用者の獲得と既存利用者の定着に取り組みます。また、感染症予防対策についても継続して徹底し、安全で安心できるサービス提供体制の維持に努めてまいります。

通所介護事業所 第2 デイサービスセンター

利用定員 30 名

目標：延べ数 7,719 名 稼働率 83%

実績：延べ数 7,237 名 稼働率 77.8% (前年度稼働率 81.2%)

利用者	稼働日数	人数	延べ数	新規数	中止数	平均数	稼働率
4月	26日	59	600	1	1	23.6	76.9%
5月	26日	64	675	3	1	23.1	83.3%
6月	26日	62	638	1	0	24.7	85.1%
7月	27日	61	659	1	1	24.5	81.4%
8月	26日	57	579	1	1	23.0	74.2%
9月	26日	55	583	1	1	24.8	74.7%
10月	28日	59	639	2	1	23.6	76.1%
11月	25日	55	544	2	0	25.5	75.6%
12月	27日	60	637	1	0	26.0	78.6%
1月	24日	59	563	1	0	24.3	78.2%
2月	24日	59	542	3	0	23.6	75.3%
3月	26日	61	578	2	0	25.7	74.1%
合計	311日	711	7237	23	11	24.4	77.8%

<実績・稼働状況>

令和7年度は、前年度と比較して稼働率が3.4ポイント減少しました。利用者の体調不良による利用中止が重なったことに加え、実人員の増加に結びつかなかったことから、目標稼働率83%には届かない結果となりました。一方で、業務効率化を目的としてインカムを導入し、運営体制の強化を進めました。

<運営状況>

多職種スタッフによる利用状況報告書の作成及びケアマネジャー等への情報提供を行い、「おぶちゃん連絡帳」を活用した多職種連携に努めました。また、季節行事や各種レクリエーションを積極的に実施するとともに、非常災害時を想定した職員・利用者合同の避難訓練を行い、環境整備及び備品管理の強化を図りました。

<課題分析>

利用相談や問い合わせは継続してあるものの、実際の利用人数増加や売上向上に十分結びついていないことが課題となっています。安定した稼働率確保に向けては、サービス内容の充実と効果的な営業活動の継続が必要と考えられます。

<今後の課題及び対応>

令和8年度は、営業方法及びPR手法の見直しと実践を継続し、利用者拡大に向けた取組を強化していきます。また、個別機能訓練による生活機能向上と在宅生活継続支援を進めるとともに、感染症予防対策の徹底及び安全なサービス提供体制の維持に努めてまいります。

短期入所事業所

利用定員 30名

目標：稼働率 90%

実績：稼働率 68.7%、延利用者数 7,564名

(前年度 稼働率 68.4%、延利用者数 7,491名)

	延べ人	利用者数	新規数	中止数	平均利用者	稼働率
4月	595名	60名	2名	3名	16.9名	56.4%
5月	486名	59名	10名	1名	15.7名	52.3%
6月	454名	53名	3名	1名	15.1名	50.4%
7月	610名	62名	7名	3名	21.4名	62.2%
8月	727名	65名	8名	0名	23.5名	78.2%
9月	717名	63名	2名	4名	23.9名	79.7%
10月	742名	63名	5名	4名	23.9名	79.8%
11月	683名	67名	5名	3名	22.8名	75.9%
12月	644名	63名	6名	2名	20.8名	69.3%
1月	628名	60名	5名	6名	20.3名	67.5%
2月	622名	55名	4名	1名	22.2名	74.0%
3月	660名	64名	10名	3名	21.3名	71%

<入居実績・稼働状況>

令和7年度の稼働率は68.7%となり、前年度68.4%と比較して0.3ポイントの微増となりました。しかしながら、計画目標である稼働率90.0%には未達となり、職員不足の影響による受入制限等もあり、安定した稼働確保には課題が残る結果となりました。利用ニーズは継続してあるものの、受入体制との兼ね合いから十分な対応が困難な場面も見られました。

<運営状況>

職員不足への対応として、従来の夜勤2名体制から1名体制へ運営方法を変更し、業務内容の整理、優先順位の明確化及びICT機器活用を進めながら、安全性確保を最優先とした運営を行いました。また、「荷物チェックアプリ」の導入により、入退所時の確認業務をデジタル化し、確認作業の簡素化、業務時間短縮及び確認漏れ防止につなげました。さらに、見守りベッド及び介護ソフト「ケアカルテ」の連携活用により、夜間見守り体制の強化と記録業務の効率化を進めました。

<課題分析>

職員不足に伴う受入制限が継続しており、利用ニーズに十分対応できない状況が稼働率伸び悩みの要因となっています。一方で、ICT機器導入により業務効率化や情報共有の精度向上は進んでいるものの、より効果的な運用定着と業務改善への活用が課題となっています。また、利用者の重度化・多様化するニーズへの対応力向上も必要と考えられます。

<今後の課題及び対応>

今後は、インカム活用による業務標準化を進めるとともに、職員教育及びチームケアの強化を図り、利用者の重度化・多様化するニーズに対応できる体制整備を進めていきます。また、ICT機器の活用定着をさらに進め、業務効率化とサービス品質向上の両立を目指します。引き続き、安全で質の高い短期入所サービス提供を継続し、利用者及び家族が安心して利用できる運営と地域福祉への貢献に努めてまいります。

居宅介護支援事業所

ケアマネジャー4.5名（管理者0.5名）

（令和7年度 2名退職（12月、2月）、2名入職（1月、3月））

<受け入れ実績>

年間目標数値：要介護 1,450名 要支援 500名

延べ利用者数：1,975名（要介護 1,401名 要支援 574名）前年度比96%(-4%)

（前年度 延べ利用者数：2,049名 要介護 1,533名 要支援 516）

利用者	要介護	要支援		合計	新規数	中止数
		介護予防	マネジメント			
4月	121名	41名	6名	168名	2名	4名
5月	112名	40名	7名	159名	3名	4名
6月	116名	42名	6名	164名	6名	5名
7月	113名	38名	7名	158名	4名	4名
8月	111名	43名	7名	161名	6名	8名
9月	113名	40名	6名	159名	7名	5名
10月	121名	42名	8名	171名	4名	4名
11月	119名	42名	7名	168名	4名	5名
12月	115名	41名	7名	163名	2名	4名
1月	120名	40名	8名	168名	1名	1名
2月	120名	40名	8名	168名	2名	4名
3月	120名	40名	8名	168名	4名	9名
合計	1,401名	574名		1,975名	45名	57名

<稼働状況>

令和7年度は、職員の退職及び引継ぎの影響により、新規ケース受入を調整する必要があったことから、年間延べ利用者数は1,975名となり、前年度比4%減となりました。

【利用実績】

- ・年間延べ利用者数 1,975名（前年度2,049名／前年比96%）
- ・要介護 1,401名（新規45名・中止57名）
- ・要支援・介護予防 574名（前年度実績を上回る結果）

【利用動向】

要介護では、新規45名に対し中止57名となり、入所・入院・死亡等に加え、担当変更に伴う整理も影響しました。一方、要支援・介護予防については、限られた人員体制の中でも、地域における軽度者支援ニーズへの対応を継続することができました。

<運営状況>

【事業所運営体制】

人員変動がある中でも、特定事業所加算Ⅱを維持し、支援体制・教育体制・組織運営を継続できたことは、事業所としての成果と考えています。

【困難事例対応・医療連携】

8050 問題、医療依存度の高いケース、入退院支援等の調整負担の高いケースにも継続して対応しました。地域包括支援センター、医療機関、行政との連携を通じ、地域のセーフティネットとしての役割を担いました。

【地域貢献・人材育成】

地域ケア会議では事例提供者及びアドバイザーとして参加し、地域支援体制づくりにも関与しました。また、他法人との合同事例検討会開催、介護支援専門員実務研修実習生及び看護学生の受入を通じ、地域支援力向上及び次世代人材育成にも取り組みました。

<課題分析>

【受入体制の課題】

年間実績減少の主な要因は、職員2名の退職及び新任職員への引継ぎ期間中、新規ケース受入を調整したことによるものです。利用者への安心・安全な引継ぎ及び未経験職員への丁寧な指導を優先した結果ではありますが、安定した受入体制及び担当体制維持が課題として挙げられます。

【事業所機能の維持】

一方で、困難事例支援、医療連携、地域貢献、人材育成を継続し、限られた体制下においても事業所機能を安定的に維持できた一年となりました。

<今後の課題及び対応>

【受入体制強化】

次年度は、新任職員の育成及び担当体制の安定化を図りながら、新規受入体制の強化を進めてまいります。

【連携・事業継続体制】

医療機関、地域包括支援センター、行政等との連携を継続し、地域に必要とされる居宅介護支援事業所として質の高い支援提供に努めます。また、高齢者虐待防止研修、BCP（事業継続計画）机上訓練、感染予防対応を継続し、事業継続体制の整備及びサービス品質向上を図ってまいります。

特別養護老人ホーム

利用定員 80名

目標：稼働率 95%
実績：稼働率 88.5%（前年度稼働率 88.3%）

新規入居者数 22名 退居者数 18名

<入居実績・稼働状況>

令和7年度年間の新規入居者は22名、退居者は18名となり、そのうち12名の方の看取り対応を当施設にて実施しました。年間稼働率は88.5%となり、期初目標値には未達となりました。要因としては、当初想定していた稼働率推移に加え、職員の採用・定着状況による受入調整の影響があったものと考えています。

また、8月中旬から9月中旬にかけて新型コロナウイルス感染症クラスターが発生し、入居者・職員合わせて20名が感染しました。そのような状況下ではありましたが、6月の個別機能訓練加算取得、10月の食費・居住費改定、令和8年3月の生産性向上推進体制加算取得等により、前年度比較で収入額は約1,100万円増となりました。

<運営状況>

【医療・感染症対応】

入院者数は27名となり、一昨年比較では約3分の2まで減少しました。平均入院日数は18日となり、総日数についても減少しました。救急搬送は8件で、9月以降の搬送はありませんでした。コロナ感染では入居者13名が感染し、その後の機能低下により2～3か月の間に5名が亡くなられており、高齢者への感染リスクの大きさを改めて認識する一年となりました。

【ケア・生活支援】

ご本人、ご家族及び嘱託医の意向を踏まえながら、多職種連携による個別ケアを継続しました。ユニット内レクリエーション、体操、機能訓練指導員によるリハビリに加え、調理レクやカラオケ等も入居者の要望を取り入れながら実施しました。

<課題分析>

入居率維持及び加算算定適正化により増収につながった一方で、目標稼働率には到達できず、空床期間の発生及び受入体制調整が課題として残りました。また、コロナクラスター発生により、感染症対策の重要性及び“持ち込まない”対策継続の必要性を強く感じる結果となりました。

<今後の課題及び対応>

今後も、多職種連携による個別ケア及び穏やかな生活支援を継続するとともに、空床期間短縮及び目標稼働率達成に向けた取組を進めてまいります。また、導入したインカム40台及び「ハナスト」の活用定着を図り、職員間の情報共有迅速化、業務効率化及び生産性向上につなげ、現場負担軽減とケア充実、実質的な増益を目指してまいります。

グループホーム デイパーク大府

利用定員 ユニット 18名

【令和7年度事業計画目標】

目標月次事業稼働率：95%以上

年間延人数：約6,250名以上

新規入居者：3名（6・7・12月）、退居者：4名（5・6・10・11月）

【令和7年度実績】

⇒ 94.84% （R6年度：97.01%）

⇒ 6,248名 （R6年度：6,391名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
人数	18	18	17	18	18	18	17	17	17	17	17	17	16.9人
延数	540	523	510	554	558	540	529	487	521	513	476	497	6248名
稼働率(%)	100	93.7	94.4	99.3	100	100	94.8	90.2	93.4	92.0	94.4	89.0	94.84

<入居実績・稼働状況>

令和7年度は、上半期は入退院対応がありながらも満床を維持できていましたが、下半期に退居者発生後、次の入居までに時間を要したことから、計画目標値を下回る結果となりました。待機者がいる中でも円滑な入居調整ができなかったことが、稼働率低下の要因と考えられます。

<運営状況>

【感染予防対策】

令和7年8月に2階入居者5名、10月に1階入居者5名の新型コロナウイルス感染、令和8年2月には2階入居者6名の感染性胃腸炎が発生しました。いずれも1名から順次感染が広がった状況であり、感染予防対策及び早期対応の重要性を改めて認識する一年となりました。

【認知症ケア・事故防止】

QC活動として他施設見学を実施し、取組内容や課題について意見交換を行いました。また、ジョブメドレー動画による研修視聴等、職員の自主的な学習も見られました。転倒による重大事故はありませんでしたが、転倒事故及び服薬事故への継続対応が必要な状況となっています。

<課題分析>

感染症発生状況から、基本的な感染予防対策及び早期発見・早期対応の徹底が課題として明確となりました。また、転倒事故、服薬事故への対応に加え、職員間の報告・連絡・相談の強化が必要と考えられます。さらに、入退居調整の遅れが空室日数増加につながっており、迅速な入居対応体制の構築が必要となっています。

<今後の課題及び対応>

今後は、感染予防対策及び感染発生時の早期対応体制を再徹底するとともに、他施設交流や研修を継続し、認知症ケアスキル向上及び職員間の報連相強化を図ります。また、転倒事故・服薬事故の再発防止、入退居対応の迅速化及び空室日数削減に取り組み、安定した事業運営につなげてまいります。

令和7年度 事業報告書付属明細書

1. 実施事業の状況

(1)実施事業

第一種社会福祉事業

ケアハウスデイパーク大府 定員 30 名

特別養護老人ホームデイパーク大府 定員 80 名

第二種社会福祉事業

第1 老人デイサービスセンターデイパーク大府 定員 30 名

第2 老人デイサービスセンターデイパーク大府 定員 30 名

デイパーク大府短期入所事業所 定員 30 名

グループホームデイパーク大府 定員 18 名

公益事業

居宅介護支援事業所

配食サービス事業

(2)実施事業の状況

事業報告書のとおり

2. 法人運営の状況

(1)理事会 事業報告書のとおり

(2)評議員会 事業報告書のとおり

(3)監事監査 事業報告書のとおり

3. 役員その他の法人等の重要な兼務状況

役職	氏名	兼務する法人名	兼務する役職
理事長	市原 辰夫		
理事	渡辺 隆夫		
理事	塚本 鋭裕	社会福祉法人仁至会	常務理事
理事	屋比久 一史		
理事	近藤 佳世子		
理事	永野 由利美		